

# 漁況予報 いわし

## 第136号

2006年7～8月漁期  
(2006年7月11日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総水揚げ量は、5月が34トン、6月が約12トンで、非常に低調であった前年同期（5月：0.7トン、6月：0.8トン）を上回りましたが、過去5年間の平均値（5月：25トン、6月：120トン）と比較すると6月に増加が見られませんでした。

魚体は、各定置網とも2005年生まれの1歳魚の中羽マイワシ(14～16cm)が主体で、6月下旬になると今年生まれの0歳魚の小羽・中羽マイワシ(10～13cm)にヒラゴが少し混じりました。

佐島地区のまき網は、まとまった来遊がなかったことから、2ヶ月を通して1日のみ1隻による0.3トンの水揚げにとどまり、餌イワシ（カタクチイワシ）へのヒラゴの混じりもほとんど見られませんでした。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総水揚げ量は、5月が483トン、6月が約636トンで、今年4月の水揚げ量1,138トンと比較すると一段落したといえます。また、前年同期（5月：1,102トン、6月：424トン）を若干下回り、過去5年間の平均値（5月：639トン、6月：472トン）と同程度で、引き続き資源は高水準となっています。

佐島地区のまき網は、餌イワシとして漁獲しましたが、6月中旬頃になると餌イワシの需要が低下したため漁獲を控えました。

魚体は2ヶ月とも10～11cm台の小型成魚が主体で、12cmを超える大型成魚は少々混じりましたが、9cm未満の未成魚はほとんど見られませんでした。

#### 【しらす】

5月の漁獲量は平年の半分程度となりましたが、6月に入っても漁の落ち込みが小さく、6月としてはここ数年間の中ではやや好漁となりました。

今年のこれまでの漁模様の特徴は、1日の漁獲量が100kgを超える日が少ないこと、少量ながら漁の切れ間がなく安定的に取れていること、湾奥部の平塚、茅ヶ崎地区で漁獲量が少ないこと、等が挙げられます。

また、5月までは昨年引き続き、シラス漁場にカタクチイワシの成魚が大挙来遊し、シラス漁に悪影響を及ぼしたと考えられます。

### ＝ 予報 ＝

#### まいわし

今漁期は、今年生まれの小羽・中羽マイワシ主体にヒラゴが若干混じるでしょう。

太平洋系群の資源量推定値から、今漁期の水揚げ量は、約230トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

#### かたくちいわし

今漁期は、小型及び大型成魚が漁獲の主体となります。

太平洋系群の資源量推定値から、今漁期の漁獲量は、約587トンと予測されます。

#### しらす

今漁期は、5～6月に相模湾で生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となります。

当センターが実施した5、6月のカタクチイワシの卵分布調査結果から、今漁期の漁獲量は、約186トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量  
と今漁期の予測量

